

Ⅱ 博士前期課程

1. 教育理念、教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1) 教育理念

天使大学大学院看護栄養学研究科は、カトリック教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の精神としている。本研究科はこの建学の精神のもと、看護学・栄養学の各専門分野における高度な専門職業人、教育や専門分野のリーダーとなる人材を育成するとともに、人間の「健康」と「生活」の支援に共通する「看護」と「栄養」を組み合わせた学修を通して、地域住民の保健・医療・福祉の発展に寄与するものである。

2) 教育目的

天使大学大学院看護栄養学研究科は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の理論及び応用を教授研究し、建学の理念であるカトリック精神に基づく「愛をとおして真理へ」に生き、知的、専門的及び応用的能力を発揮して、人間愛をもって社会の発展に寄与する高度専門職業人を育成することを目的とする。

人材養成に関する目標を次のとおり定める。

- (1) 看護学専攻博士前期課程においては、看護学に係る最新の知見と高度な専門技術を学修し、保健医療福祉分野の発展に貢献できる高度な専門性を有する人材を育成する。
- (2) 栄養管理学専攻博士前期課程においては、栄養管理学に係る最新の知見と高度な専門技術を学修し、保健医療福祉分野の発展に貢献できる高度な専門性を有する人材を育成する。

3) ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

(1) 共通ディプロマ・ポリシーおよび共通カリキュラム・ポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

1. キリスト教的人間観を基盤に専門分野の知識と倫理観を保健・医療・福祉に応用できる。
2. 専門分野において主体的に活動し、関係者と連携・調整を図り、課題解決を推進することができる。
3. 専門分野の高度な知識を身に付け、科学的根拠に基づく総合的判断を研究と実践に適用できる。
4. 専門分野の課題について、研究方法を選択し、研究成果をまとめることができる。

【カリキュラム・ポリシー】

天使大学大学院看護栄養学研究科は、学士課程における看護学・栄養学を基礎として、各専門分野における人間の「健康」と「生活」の支援に共通する「看護」と「栄養」を組み合わせた学習をとおして、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与することのできる高度な専門職業人と研究者・教育者としての基礎的能力を育成する。看護学専攻並びに栄養管理学専攻のカリキュラムはともに、両専攻共通科目、専門基礎科目、専門科目から構成される。

(2) 看護学専攻博士前期課程

<修士論文コース>

【ディプロマ・ポリシー】

1. キリスト教的人間観を基盤に看護の理念に基づく倫理観をもって、実践・管理・教育・研究ができる。
2. 専門分野の高度な知識・技術を修得し、理論、分析・評価力をもち専門性の高い看護実践ができる。
3. グローバルな視点を持ち、国内外の研究成果を取り入れ、看護実践・研究・教育に貢献できる。
4. ケアの質向上のためにシステムを評価し、解決に向けて多職種と連携・協働し、環境を調整できる。
5. 専門分野の課題を洞察し、適切な方法を選択し成果をまとめる基礎的研究能力を身に付けている。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・専門性の異なる院生の共通の学修の場をとおして、研究や実践の基礎となる理論や学問を学び、総合的な視野をもった実践の基礎的能力を修得するために、両専攻共通科目を配置した。
- ・高度専門職としての看護の実践と研究、教育を推進できる基礎的能力を養うために、看護理論、看護倫理、看護研究、看護教育、看護管理などの専門共通科目を配置した。
- ・高度専門職としての専門基礎となる知識・技術を修得するために、広範囲な学問領域にわたり必要な科目を専門基礎科目として配置した。
- ・専門領域における高度な看護実践や研究に必要な能力を養うことを目的に各専門領域に特論、演習科目を配置し、看護実践やエビデンスを追求し、学修を深める。
- ・高度専門職として看護の責務を遂行するために、自己の課題を見出し、主体的・継続的に学び、科学的に探究する研究の基礎的能力を修得するために、特別研究を行う。

<高度実践看護師コース>

【ディプロマ・ポリシー】

1. キリスト教的人間観に基づく全人的ケアを実践できる。
2. 各専門分野における倫理的配慮、意思決定支援ができる。
3. 専門的なエビデンスに基づく実践・相談・教育ができる。
4. 高度なコミュニケーション能力に基づく多職種連携・調整することができる。
5. 組織変革・政策提言に必要な変化エージェントの役割意識を有している。
6. 基本的な研究能力を有し、課題研究を今後の実践に結び付けて説明できる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・共通科目 A 群は、看護の実践と研究・教育の基盤となる能力の養うために、看護理論特論、看護倫理特論、看護研究、看護教育特論、看護管理特論、コンサルテーションを配置した。
- ・共通科目 B 群は、専門分野の実践の根拠となる基礎的知識を修得のために、基礎科目として、病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学を配置した。
- ・専門分野の専門科目は、専門分野の基礎科目、専門科目における高度な知識・技術・態度を修得し、実践において統合するために専門領域の臨地実習を行う。
- ・課題研究は、専門領域特有の課題を研究し、学位論文としてまとめる科目である。

<保健師コース>

【ディプロマ・ポリシー】

1. キリスト教的人間観を基盤に、公衆衛生看護専門職としての倫理観を備え、公衆衛生看護実践ができる。
2. 科学的根拠と文化的感受性をもってコミュニティの健康と環境の課題を明らかにできる。
3. 人々の健康増進能力を高め、複雑な健康課題の解決のために関係者と連携・協働してマネジメントできる。
4. グローバルな視点で将来を見据えて地域ケアシステムを評価し、政策を提言できる。
5. 保健師の責務を遂行するための科学的論理的思考、基礎的研究能力を備え、公衆衛生看護の課題解決に自ら取り組むことができる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観と公衆衛生看護の理念、看護職としての倫理観のもと公平な看護を自律して実践できる保健師の養成に必要な科目を主体的に学習するプログラムを提供する。
- ・人々の健康を多面的にとらえ科学的根拠をもって分析できる力を育成するために、公衆衛生大学院のグローバルスタンダードとされる分野を網羅する専門基礎科目を提供する。
- ・個人・家族、集団に対する基礎的支援能力を強化するために、援助過程を論理的に思考し、専門性の高い実践に必要な科目を設定し、実習のプログラムを提供し実践能力を獲得する。
- ・地域特性に応じた看護活動を展開できるようになるために、演習と実習を段階的に配置し、地区活動を通して解決に向けた取り組みを住民と協働して実施するプログラムを提供する。
- ・保健師としてグローバルな視点で地域の将来を見据え、人々の健康と生活を護るための社会資源の開拓やケアシステム構築、政策提言できる能力を育成するプログラムを提供する。
- ・保健師としての責務を遂行するために専門性を高め、自己の課題を見出し主体的・継続的に学び、科学的に探究する能力を育成するために、公衆衛生看護課題研究を提供する。

(3) 栄養管理学専攻博士前期課程

【ディプロマ・ポリシー】

1. キリスト教的人間観を基盤に倫理的な配慮を行い、人間の「健康」と「生活」の支援に必要な基礎知識を身に付け保健・医療・福祉に応用できる。
2. 栄養学の専門分野における問題についてグローバルな視点を持って主体的に探究し、連携・調整を図りながら問題解決方法を考えることができる。
3. 栄養学の専門分野における高度な知識を身に付け、研究および栄養管理の実践に適用できる。
4. 栄養学の専門分野における課題について、適切な研究方法を選択し、研究成果としてまとめる事ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・キリスト教的人間観を基盤にした倫理的な配慮を身に付けるために、両専攻共通科目である倫理学特論、人間関係論特論を配置した。
- ・人間の「健康」と「生活」の支援に必要な学修を通して、地域の保健・医療・福祉の現状について議論できるだけの知識を身に付けるために、医療情報・医療経済、地域ケアシステム論、環境保健学、健康社会学、医療人類学特論を設置した。
- ・グローバルな視点を持つこと、連携・調整を図ることの重要性を学ぶために、健康行動科学特論、ヘルスカウンセリング論、国際保健学特論、国際保健学特論演習を配置した。
- ・専門分野での実践と研究を支える科目を開設し、統計学や疫学の基礎理論を身に付け、主体的に探究し研究する方法を学ぶために、統計学特論、疫学、研究方法論特論を配置した。

1. 教育理念、教育目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

1) 教育理念

天使大学大学院看護栄養学研究科は、カトリック教育機関として「愛をとおして真理へ」を建学の精神としている。本研究科はこの建学の精神のもと、看護学・栄養学の各専門分野における高度な専門職業人、教育や専門分野のリーダーとなる人材を育成するとともに、人間の「健康」と「生活」の支援に共通する「看護」と「栄養」を組み合わせた学修を通して、地域住民の保健・医療・福祉の発展に寄与するものである。

2) 教育目的

天使大学大学院看護栄養学研究科は、教育基本法及び学校教育法の定めるところにより、学術の理論及び応用を教授研究し、建学の理念であるカトリック精神に基づく「愛をとおして真理へ」に生き、知的、専門的及び応用的能力を発揮して、人間愛をもって社会の発展に寄与する高度専門職業人を育成することを目的とする。

人材養成に関する目標を次のとおり定める。

- (1) 看護学専攻博士後期課程においては、看護学及び保健医療の発展に貢献し、人々の健康に寄与する研究者、教育者のリーダーとなるこれからの社会のニーズに応え得る人材を育成する。
- (2) 栄養管理学専攻博士後期課程においては、栄養管理学に係る先端的な教育及び研究を行うことにより栄養管理学の高度の専門知識と技術を教授し、自立して研究活動を行い、卓越した教育上の指導能力を有する人材を育成する。

3) ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

(1) 看護学専攻博士後期課程

【ディプロマ・ポリシー】

1. 高度な専門的知識、技能を有し、教育研究を通して指導的な役割をとる能力を有する。
2. 人々の健康や看護実践に関わる課題を専門的に探究し、解決に導く研究を計画、実施する能力を有する。
3. 人々の健康課題を解決し、看護学の発展へと導く看護実践の理論と技法を開発する能力を有する。
4. 保健医療の現場の変革を目指して社会に働きかける態度・資質を有する。
5. 高い倫理観と専門職としての責任感をもち、研究に主体的に自律して取り組む能力を有する。

【カリキュラム・ポリシー】

- ・教育目的の達成、目標とする人材を育成するため、コースワークを基盤にリサーチワークを発展させられるよう、系統的に「基盤科目」「専門科目」「研究指導科目」の科目区分を設置し、科目を設置する。
- ・本課程の設置の趣旨およびディプロマ・ポリシー5の達成のため、基盤科目に「生命倫理特論」を必修科目として設置する。
- ・高度な専門知識と研究能力をもち、研究を通して看護及び保健医療の課題を解決する能力を修得し、ディプロマ・ポリシー1、2、3を達成するため、基盤科目に「質的研究方法論」「疫学的研究方法論」「データサイエンス演習」「分子生命医科学特論」を設置する。

- ・研究課題につながる地域の保健医療、看護実践の状況を多様な視点から専門的知識、理論に基づき科学的に分析し、人々の健康課題を解決し新たな看護を開発する能力を育成する、ディプロマ・ポリシー 2、3 及び 4 を達成するための科目として、専門科目に「地域基盤看護学特論」「実践看護学特論」を設置する。また、特論で分析した健康課題や看護実践上の課題を、さらに文献検討及び討論を重ね研究課題へと焦点化する科目として「地域基盤看護学演習」「実践看護学演習」を設置する。
- ・看護学研究を自律して計画的に推進する能力を修得し主にディプロマ・ポリシー 2 及び 5 を達成するために、各学年に「看護学特別研究Ⅰ」「看護学特別研究Ⅱ」「看護学特別研究Ⅲ」を設置し、複数の指導教員により研究の一連の過程を連続的、段階的に指導する。

(2) 栄養管理学専攻博士後期課程

【ディプロマ・ポリシー】

1. 専門的かつ高度な教育及び研究を通して栄養管理学の先端のおよび実践的な知識を身に付け、保健・医療・福祉に貢献できる。
2. 栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行うことができる。
3. 栄養学の専門分野における課題について、研究をとおして課題解決の方法を提示できる。

【カリキュラム・ポリシー】 2024 年度以降入学生対象

- ・保健・医療・福祉に貢献するために、専門的かつ高度な教育と研究方法の学びを通して、栄養管理学の先端のおよび実践的な知識を身に付ける科目として研究方法特論を配置した。
- ・栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行う能力を養うために、栄養学特論を配置した。
- ・栄養学の専門分野における課題について、研究を博士論文としてまとめ、課題解決の方法を提示できる能力を養うために、栄養管理学特別研究を配置し個別指導体制の充実を図る。加えて、リサーチ・ループリックを導入し、年に 2 回、学生の自己評価と主任指導教員と副指導教員の評価をすり合わせることで、改善点や課題を明確にする機会を設ける。

【カリキュラム・ポリシー】 2023 年度以前入学生対象

- ・保健・医療・福祉に貢献するために、専門的かつ高度な教育と研究方法の学びを通して、栄養管理学の先端のおよび実践的な知識を身に付ける科目として研究方法特論を配置した。
- ・栄養管理学に関わる課題においてグローバルな視点を持って主体的に探究し、自立して研究を行う能力を養うために、基礎系と実践系に体系化し、基礎系栄養管理学特論、実践系栄養管理学特論を配置した。
- ・栄養学の専門分野における課題について、研究を博士論文としてまとめ、課題解決の方法を提示できる能力を養うために、基礎系栄養管理学特別研究と実践系栄養管理学特別研究を配置し個別指導体制の充実を図る。加えて、リサーチ・ループリックを導入し、年に 2 回、学生の自己評価と主任指導教員と副指導教員の評価をすり合わせることで、改善点や課題を明確にする機会を設ける。

- ・食品と栄養に関わる問題を解決するうえで必要とされる高度な知識を身に付け、研究専門分野への応用実践力を養うために、食品衛生学特論、代謝栄養学特論、栄養管理学特論、健康・食行動理論、臨床栄養学特論等の専門基礎科目・専門実践科目を配置した。
- ・栄養学の専門分野の知識を深め、それを応用し演習・研究を行い、自ら問題解決を行う能力と研究能力を養うために、栄養管理学特別研究、栄養管理学特別演習を配置し、個別指導体制の充実を図る。加えて、リサーチ・ループリックを導入し、学生の自己評価と主任指導教員と副指導教員の評価をすり合わせることで、改善点や課題を明確にする機会を設ける。